

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
 神奈川 碩心会 発行

現在会員数 147名
 地区別 298名
 地区別 63名
 (合計) (508名)

58年9月号 (134号)
 発行者 根岸岳萃
 編集 中村愛岳

木村岳風 (5)

吟詠芸術向上と大衆化への道拓く

長野県本部長 竹ノ内岳宗
 『晩年の木村先生』

昭和二十七年七月一日は先生の命日である。

この年の五月、先生は、病が重かったが、夫人吟友の付添いで東京下谷公会堂の吟道大会に参加され、吟道精神、烈々、この二つの天事を遂行された。

昭和二十五・六年以来、先生は収入に乏しく、食物・薬剤等に不自由されていた。

門下生の差し上げるものも少なかった。

現岳風会理事長松井岳洋先生が「せめて毎日鶏卵を」と、鶏舎を作ってあげたのは、心温まる挿話である。

また先生は、昭和二十年東京の道場を焼け出されたとき、せっかく岳風会に光を放っていた先輩、吟友の遺品、遺墨の焼失せんことを憂い、トラックも汽車も混雑して輸送困難のとき、万難を排してこれを諏訪に移した。

それらは、いま、諏訪の岳風記念館に展示されている。

遺愛の琵琶、ヴァイオリン（青年時代の

所有品）から、先生や先輩、先賢の遺墨等が沢山展示され、木村先生の息吹が聞こえるようである。

とくに、木村先生全国行脚のときにいただき集めた記念の画集（二十八冊）は、貴重な所蔵品である。

寿命に恵まれず、五十二歳の若さで逝った木村先生は、いま、一所に祀られている吟友諸賢のみたまと語られ、鎮まっておられる。地蔵寺山の松籟が、墓側の吟魂碑に吹き入って、諸先生のみたまは、春来る近きを感じておられるであろう。（おわり）

◇筆者竹ノ内岳宗先生は木村岳風先生の竹馬の友であり、この原稿は松井岳洋先生を通じて連載させていただきました。

第84回全国大会参加

県本部吟行会

左記の方々が参加します。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| 加藤岳相 | 沼田洸岳 | 千葉香岳 | 森田暁岳 | 松野春風 |
| 千葉香岳 | | 森田嶺風 | 黒崎李風 | 村田澁風 |
| 森田嶺風 | | 安田寿風 | 平山栄風 | 重松由風 |
| 安田寿風 | | 田中明山 | 松井正山 | 大屋正山 |
| 田中明山 | | 鈴木陽泉 | | 行谷松泉 |
| 鈴木陽泉 | | | | 行谷佳山 |
| | | | | 石渡啓風 |

人生常に前進あるのみ

風早支部 石川 豊風

戦後の二十二年、まだ身心共に落ちつかない頃、私は長柄橋際に住んでおりました。当時薄暗い長柄トンネルの中で、力強い川中島の吟声に、振り返る事が度々ございました。その方が若き日の岳萃先生でした。先生もきつと思いついて下さると思いません。その美声が耳に焼きついて、その時以来何時の日か詩吟をやりたいと思いつけてきました。

二十年以上過ぎて、一応落ちついた時が参り、思いがけず新井さんに誘われて、堀内教場へ弟子入りさせて戴くチャンスを得ました。そして今日迄、十数年が過ぎてしまいました。

其の後私の勝手な都合で、小さな部屋で家庭的な風早教室が生れて、杉山先生の下でお稽古を始めて、はや六年、吟友一同と楽しく真面目に勉強しております。

古参の私は全く駄目な生徒で恥ずかしき次第ですが、後輩の皆さんがコンクールで三度目の優勝を果し、驚くばかりですが、これも努力と精進、そして良き指導者のおかげと感謝いたしております。

第39回神奈川県本部

吟道大会

五十八年九月十一日(日)横浜市民ホールに於て開催され、盛会裡に終了しました。傾心会からは左記の方々が参加されました。

独吟 春日の作 木村松風

合吟 富士山 黒崎李風他

生田に宿す 森田暁風他

帰雁 千葉香岳

吟・加藤圭岳 竹石憲岳

舞・大石春風 田辺伯風

白井麗風

杉本恵山

立休吟 吟・中村愛岳 板橋雅風

滝山城懐古 舞・一之瀬汀風 伊藤峰山

スライド吟詠 山行 立沢御風

楠公子に別るるの図 小森香山

合吟コンクール 九月十三夜 綱川金治他

荒木美智子他

合吟 山行同志に示す 千葉劔岳他

爾靈山 小峯桜岳他

独吟 田園雑興(常任理事) 加藤岳相

漫述(副本部長) 根岸岳萃

神州(理事兼名誉会長) 松井岳洋

教場だより

一色B支部・一組 加藤 朋風

一色B支部は昭和四十八年に発足、現在は四教室から成りたっております。私達の教室が最初に出来、入会当時は二十数人おりましたが、色々な都合により、現在では十人になり、当初からの者は私と二人だけとなっております。

お稽古は加藤岳相先生の御指導により、木曜日の夜に行われます。少人数のため家族的ですが、指導はきびしく、細かい所に注意も多く、ありがたい様な、大変な様なお稽古となっております。

B支部はとりたてて行事もありませんが、会員の方が昇段された時には、反省会兼会食会をする事がなにより楽しいひとときです。この時はかりは上も下も、年の差も忘れて過します。又今年十年目にして、八幡宮の夜桜見物をし、吟の精進をお願いしつつ、心なごむ一夜を過ごしました。このよりの集いを持つ事のできますのも、先生はじめ、教場の皆様のおかげと思っております。先生の「和」を持って吟道に励むようにとの言葉を念頭に皆さんと頑張りたいと思っておりますので一色B支部をよろしく。

武野の晴月

林 羅山

驚異的ともいえる暑さが九月に入ってもまだ続いて、うんざり。秋の行事がいっぱい待っていて早く涼しくなってほしいもの。その行事の一つ審査会も間近かとなりまして、審査課題の一つ「武野の晴月」をとりあげてみることにしよう。秋といえば月……そしてそこに広がる広野の風景がそのまま浮んでくるような気がします。

武陵の秋色月嬋娟

曠野平原晴れて快然

青々を輾破し轍迹無く

一輪千里草天に連る

(語意)

武野 | 武陵野、関東平野の一部

武陵 | 同じく武陵野をいう

嬋娟 | 色や姿の美しいさま

曠野 | 広い野原

快然 | 気持のよ良さ

輾破 | 車輪でひく、わだちにかける

轍迹 | 車輪の通った跡、わだち

一輪 | ここでは月をさす

千里 | 広い面積をいう

(作者)

(天正十一—明暦三) 一五八三—一六五七

江戸初期の儒者、京都の人、はじめ建仁寺の僧だったが、早くから朱子学の研策を志し、藤原星窩の門人となった。慶長十年、徳川家康に仕え、以後、家綱まで四代の將軍の侍講、外交文書、諸法渡の草案をつくり、幕政の整備に貢献した。寛永七年、上野忍ヶ岡に家塾を建てたが、これがのちの昌平黌のもとになった。

著作極めて多く「羅山先生」文集他、詩文集だけでも一五〇余巻、その他の著書一五〇種に及ぶ。藤原星窩は近世儒学の開祖であったのに対し、林羅山は江戸初期の文教政策の担当者であり、家康・秀忠・家光の政治顧問をつとめた総合的文化人。75歿

ぎんどう
イソッポ



ヒバリのビイビイが、どうしたら他の鳥より上手に吟じられるか、どうしたら上手になれるかと考えていました。そこへフクロウの師範が通りかかりました。ヒバリはこれはよいところへ先生が来られたと思ひ、早速フクロウの前に進み出て「フクロウの先生、私は上手になりたいのですが、どう

したらよいでしょうか、教えて下さい」と尋ねました。フクロウは「それは恥を捨ててよく他の者に聞き、そして習う事ですよ、これこそ上手になる基ですよ」と言って通り過ぎました。

今度はカラスの師範が通りかかりました。ヒバリは早速前に進み出て前と同じ事を聞きました。カラスは「それは好きになる事さ」と言って通り過ぎました。

少したつとオオムの師範がやってきました。ヒバリは又前と同じ事を聞きました。オオムは「器用が一番さ」と言って通り過ぎました。

又少したつと鳩の師範が通りかかりました。ヒバリは又々同じ事を聞きました。鳩は「それは功を積むことですよ、一生懸命努力しなさい」と言って通り過ぎました。

ヒバリが種々考えていると「どうしたのか」と年老いた鷹の師範が声を掛けてくれました。ヒバリは今迄の話をして一体どれが一番大切なのかと考えていたので話すと鷹の師範は笑って「それは、どれも一つだけでは駄目なのだよ、よく聞き、習ひ、好きになり、そして器用に加えて努力をしなれば決して上手にはならないのだよ」とやさしく教えてやりました。

(吟道48・8月号より)

遺孤碑と延命寺

田越川のほとり

審査会をはじめ、詩吟の会でもよく利用させていた。田越川のほとり、逗子図書館ホールに近い、延命寺と遺孤の碑の昔を探ってみることにしよう。

図書館を左にみながら進むと、田越川にかゝる清水橋がある。田越川は別名、御最後川ともいわれる。逗子でも唯一の川らしい川である。その清水橋のたもと、京浜急行の線路側に大正十二年建立「忠臣三浦胤義遺孤碑」の石碑と首塚がある。鎌倉幕府と朝延とが争った、いわゆる承久の変（一二二一年）で三浦義澄の子胤義（たねよし）は朝延方に味方した。戦い敗れるにおよび胤義は自害し、十一歳を頭に、遺された五人の子も斬首されることになる。これを知った祖母は、せめて一番上の孫でも許してほしい、と願って出て許されたが、残りの幼子はこの田越川のほとりで斬られた。その霊を弔った遺跡がこの首塚だといふ、別名に四孤の碑ともいわれる。

京浜逗子駅の踏切を渡るとほどなく、左方に延命寺がみえる。通称「つしでら延命寺」。黄雲山と号し、行基が開削したと伝

える真言宗で、本尊は大日如来像。三浦氏および北条氏代々の祈願所であったと記すが、寺史の確かなことは分らない。

寺は明治二十九年焼失し、わずかに鐘楼だけが残りという痛手をこらむったが、その後再建された。鐘楼のかたわらには、三浦道香と家臣の墓と伝える宝篋印塔七基がある。道香は道寸の弟という。永正十七年（一五二〇）小坪の住吉城をまもっていた道香は、北条早雲に攻められて敗走し、道香とわずかの家臣は深手を負って延命寺に入り、壮烈な自害を遂げたと伝える。のち道香の死をいたんだ家臣の菊地幸衛門は、主君の菩提を弔うため延命寺を造替したという。



(入会)

593 望月京子 葉山町堀内六六四

(上山口) (電)〇四六八―七五―三四〇五

594 行谷キミ子 葉山町一色七五九

(上原) (電)〇四六八―七五―三七〇四

595 植木孝夫(再) 葉山町堀内一四二一

(堀内D) (電)〇四六八―七五―六八二六

簡単にできる手と足の運動

ためしてみませんか

- ◇脳の老化を防ぐには手の指はもちろん、足の指もよく使うことが最も肝心
- ◇手の指をよく動かすだけで全身の血液循環がぐんとよくなり血圧が下がる
- ◇脳の老化が進むとかたくなる指の関節を柔軟にしボケを防ぐ指そらし
- ◇足の指を一本づつつまんで引っぱると腰の緊張がほぐれ腰痛がらくになる
- ◇肝臓の弱り具合がわかり毎日行えば肝臓病の予防にもなる足の親指そらし
- ◇肩こりの解消に不思議によく効く手の薬指を曲げ伸ばしするだけの運動
- ◇五十肩のうずくような痛みは手の小指を押しもみすると不思議におさまる
- ◇手の親指を曲げ伸ばしすれば気管支の緊張がとけ激しいセキがしずまる
- ◇左足の第四指をつまんで振動させると便秘が起こり便秘が治る
- ◇悪い姿勢が原因で起こる肩こりや腰痛の解消に即効のあるつま先歩き
- ◇胃弱の人は左足の親指に力を入れて歩くクセをつければ胃が強くなる

(雑誌杜快より)